

P05 妊婦の口腔衛生、喫煙および受動喫煙に対する意識の評価

稲垣幸司^{1,8,9}, 野口俊英¹, 大橋真弓², 細井延行², 森田一三³, 中垣晴男³, 磯村 毅^{4,8,9}, 吉井千春^{5,9}, 加濃正人^{6,9}, 中川恒夫^{7,8}

¹愛知学院大学歯学部歯科保存学第三講座, ²名鉄病院産婦人科, ³愛知学院大学歯学部口腔衛生学講座, ⁴リセット禁煙研究会 トヨタ記念病院禁煙外来, ⁵産業医科大学呼吸器内科, ⁶新中川病院内科, ⁷青山病院小児科, ⁸子どもをタバコから守る会・愛知, ⁹加濃式社会的ニコチン依存度ワーキンググループ

ニコチン依存は身体的依存と心理的依存よりなる。妊婦に対して歯の健康づくり得点(10問20点満点)を用いた口腔衛生、喫煙状況と家庭内の受動喫煙、妊娠に対する喫煙の有害性に関する認知度、KTSND(Version 2、10問30点満点、10点以上が異常)を用いた社会的ニコチン依存度を検討した。

対象は、2006年4月~11月の間に妊娠16~24週の安産教室に参加した妊婦95名(21~40歳、30.7±3.8歳)である。口腔の健康指標となる歯の健康づくり得点(10問20点満点、10点以下が要注意、表2) 喫煙歴、家族・同居者の喫煙(受動喫煙) 妊娠に対する喫煙の有害性に関する認知度、約30分の講義(歯周病、喫煙と受動喫煙の害および歯周組織への影響、リセット禁煙的心理教育)前後のKTSNDの結果を評価した。

統計解析は、喫煙状況間(非喫煙者、前喫煙者、喫煙者)のKTSND得点の比較には一元配置分散分析を用い、多重比較はTukey's honestly significant difference 検定を行なった。講義前後のKTSND得点の比較には対応のあるt検定、受動喫煙の有無による比較にはt検定、歯の健康づくり得点とKTSND得点との関係はPearsonの相関係数を用いて検討し、有意水準5%未満を有意と判定した(SPSS 11.0J for windows)。

現在歯数は、27.3±3.6 歯、歯の健康づくり得点は、13.5±3.6(10以下19名、20.2%)であった。歯周炎に関連する歯肉出血症状のあるもの53名(55.8%)、歯肉腫脹症状のあるもの19名(20.0%)、両症状ともあるものは17名(17.9%)となった。歯の健康づくり得点と講義後のKTSND得点との間に、有意な負の相関を示した($r = -0.239$, $P < 0.05$)。喫煙者1名(1.1%) 前喫煙者15名(15.8%) 非喫煙者79名(83.1%)で、家庭内での受動喫煙が39名(42.4%)にみられた。なお、前喫煙者の禁煙時期は、最終月経以前7名、最終月経以後1名、妊娠自覚後7名であった。妊婦への喫煙の有害性に関する認知度は、11項目中、5.6±2.0項目であった。また、喫煙

状況や受動喫煙別での差異はなかった。KTSND得点は、講義前に比べ、講義後10問すべての項目で有意に低下し、講義前9.5±4.6(10以上47名、49.5%)から、講義後4.6±4.2(10以上10名、11.1%)へと減少した($P < 0.01$)。喫煙状況別では、KTSND得点は、講義前後で、喫煙者9から5、前喫煙者13.5±4.5から6.5±5.4、非喫煙者8.8±4.2から4.2±3.8へそれぞれ減少した($P < 0.01$)。また、講義前では、非喫煙者に比べ、喫煙経験者では、KTSNDが高値となった($P < 0.01$)。講義後には、KTSNDが低下し、有意な差異はみられなくなった($P = 0.06$)。受動喫煙群39名と非受動喫煙群53名(3名は不明)で比較すると、講義前後のKTSNDの合計得点に有意な差異はなかった。しかし、非受動喫煙群の方が、年齢が高く(受動喫煙群29.2±3.9歳、非受動喫煙群31.8±3.4歳、 $P < 0.01$) 現在歯数が多く(受動喫煙群26.1±5.0 歯、非受動喫煙群27.9±2.2 歯、 $P = 0.052$) 歯の健康づくり得点(受動喫煙群12.7±3.5、非受動喫煙群14.1±3.6、 $P = 0.08$)が高い傾向を示した。KTSNDの設問別では、講義前の受動喫煙群では、喫煙を容認する項目(「設問4 喫煙する生活習慣も尊重されてよい」「設問5 喫煙によって人生が豊かになる人もいる」と喫煙の害を過小評価する項目(「設問9 医者はタバコの害を騒ぎすぎる」)が非受動喫煙群より高い値を示した($P < 0.05$)。さらに、講義後では、受動喫煙群で喫煙を容認する項目である設問4($P < 0.01$)と喫煙の効用を過大評価する項目(「設問6 タバコには効用(からだや精神に良い作用)がある」、 $P < 0.05$)で高値を示した。

歯周病症状をもつ妊婦が多くみられた。妊娠を契機に1名を除いて、喫煙者は禁煙していたが、多くが家庭内での受動喫煙の影響を受けていた。講義の直後に、KTSNDが著明に低下した。歯周病の改善と禁煙、受動喫煙からの回避、出産後の再喫煙の防止に向けて、繰り返し啓発、禁煙支援を継続することが重要と思われた。